

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第3半旬にピークが見られた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬と第3半旬に増加した（図3）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃率は確認されず（平年28.0%）、幼虫発生圃場率は20.0%（平年30.1%）で、平年より低かった（図4、5）。

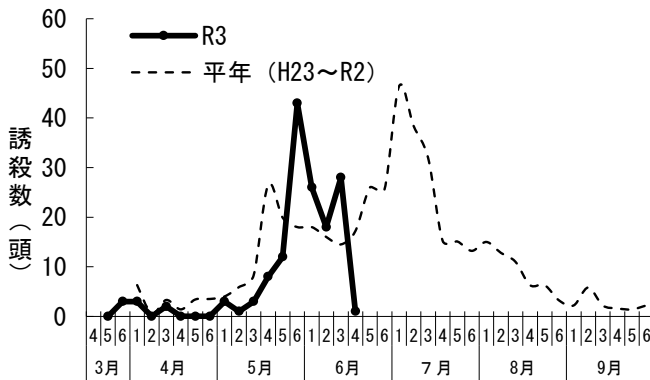


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

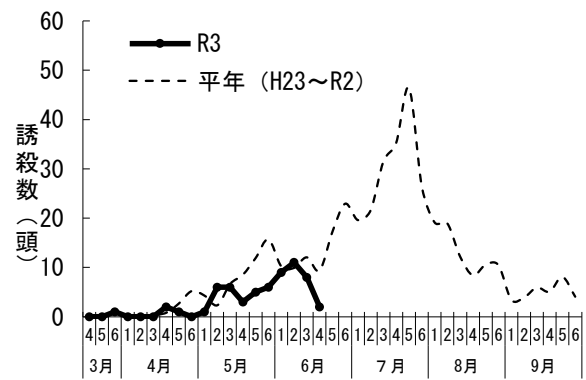


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

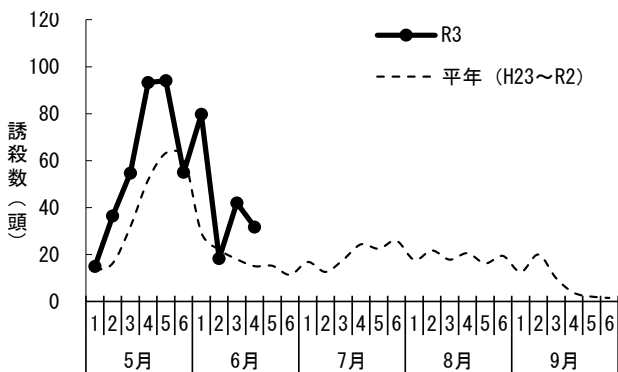


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

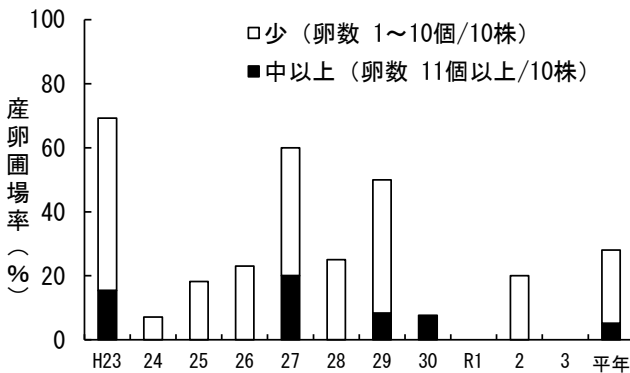


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

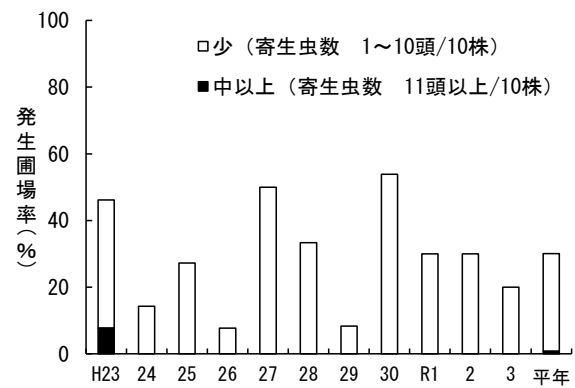


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺は、6月は確認されなかった（図6）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺数は、6月第3半旬まで確認され、ほぼ平年並であった（図7）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は10.0%（平年35.3%）であり、平年より低かった（図8）。

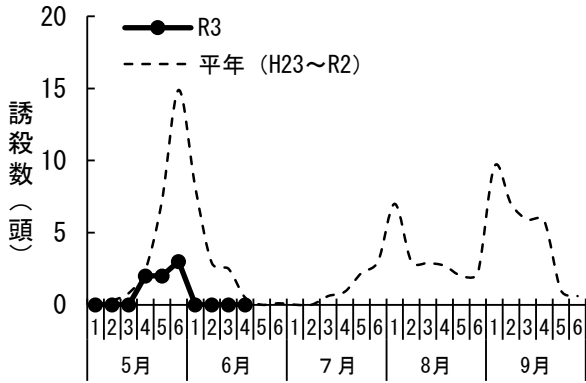


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

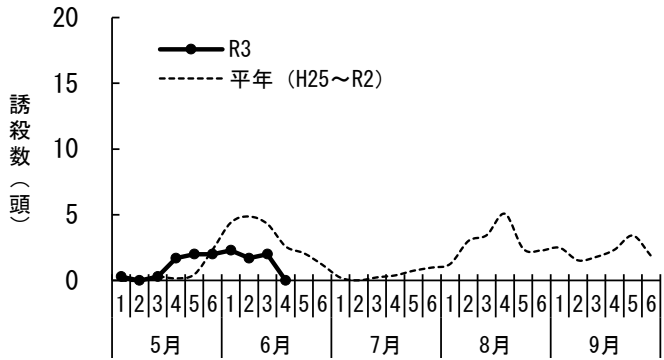


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

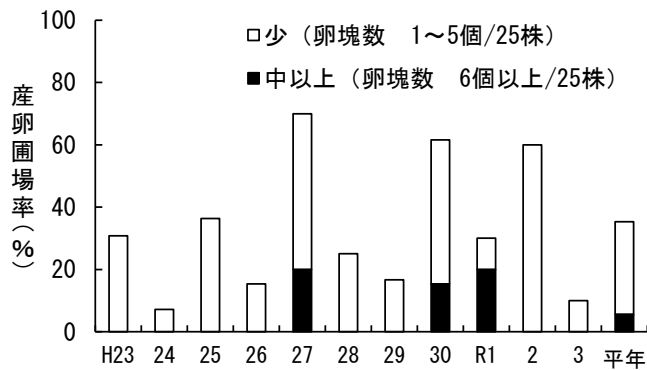


図8 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬までは平年より多かったが、以降はおおむね平年より少なかった(図9)。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、おおむね平年より少なかった(図10)。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は50.0% (平年48.4%) で平年並であったが、幼虫の発生圃場率は30.0% (平年19.3%) で、平年より高かった(図11、12)。

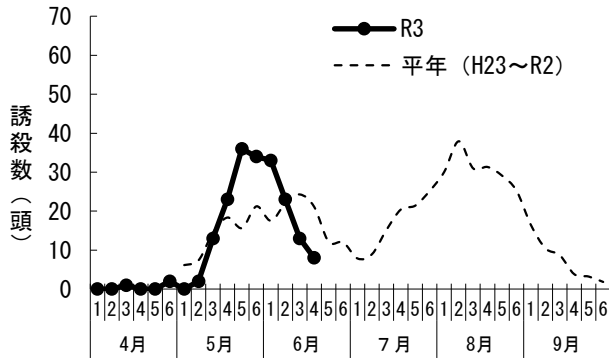


図9 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

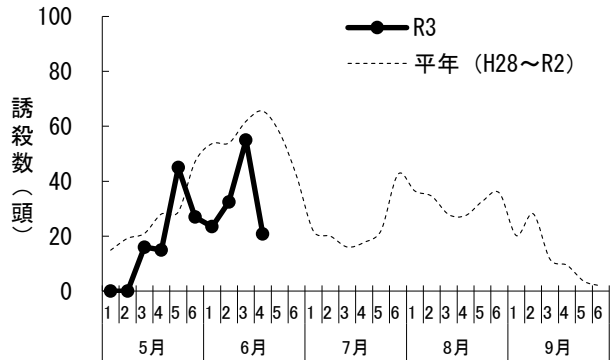


図10 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

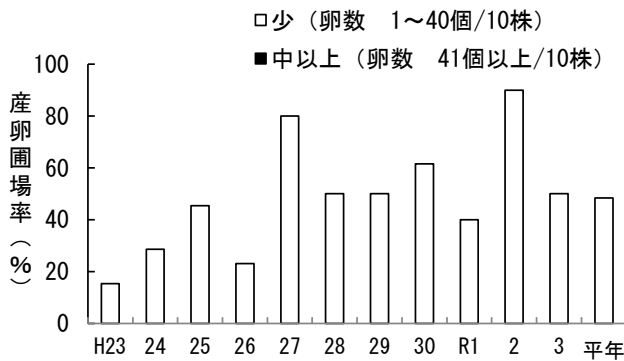


図11 タマナギンウワバ産卵圃場率の年次推移(6月中旬)

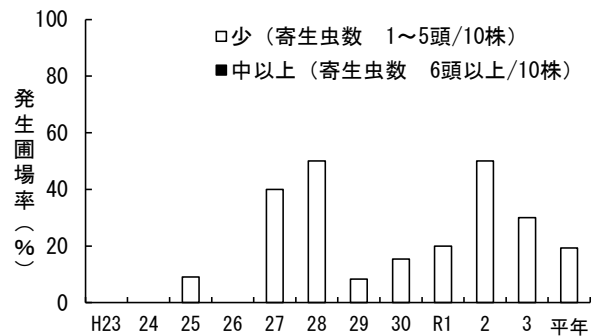


図12 タマナギンウワバ幼虫発生圃場率の年次推移(6月中旬)

4 モンシロチョウ

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生は見られなかった(図13)。

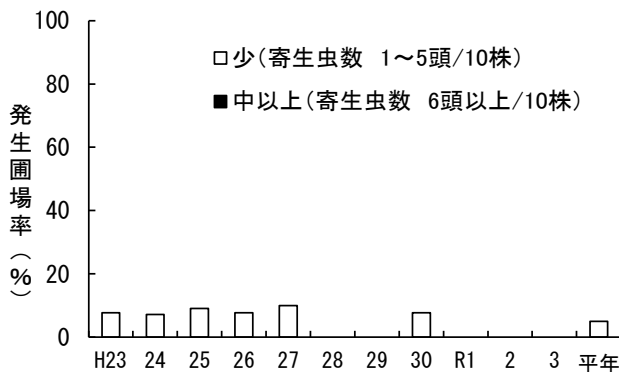


図13 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移(6月中旬)